

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500064		
法人名	株式会社 インテント		
事業所名	グループホーム いろは		
所在地	宮崎県小林市細野2283-3		
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果市町村受理日	平成28年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kanistrue&jisyosyoCd=4590500064-00&PrefCd=45&Version=0d+022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の理念を基に、利用者の尊厳・個性を大切に、一人ひとりの利用者が自分らしく穏やかに生活できるように、職員とのコミュニケーションを大切に取り組んでいます。そのために毎日の個人記録も、利用者との会話内容・気分の変化等を記録し、本人の思い(希望・要望・不安・喜び・悲しみ)を模索し、その思いを受け入れられるような対応をケアプラン等に反映しています。また、日々の生活の中で、その人の出来る事に注目し、お手伝いしていただく事により、人の為に役立つ喜びや自信に繋がるケアに取り組んでいます。その他、竹内式認知症ケアも導入し、基本的なケアを実践することで、認知症特有の不穏(周辺症状)の改善に努めています。また、職員育成の一環として、毎朝20分間清掃を行っています。決められた場所を出勤者全員で時間内に作業を終わらせる事で、職員の効率化と気づきの感性、創意工夫、協調性などを養うことを目的としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、管理者、職員が研修への参加を積極的に行い、その研修を実践につなげようと前向きに取り組んでいる。毎日の個人の記録用紙にケアプランを盛り込み、会話の内容や気分の変化を図式化したり、利用者に対する支援も日々の生活の中で持てる力を自然に引き出せるように遠くで見守り、その人のできることに注目したケアを実践している。食事時のテーブル配置も利用者のペースに合わせた工夫がなされている。ホーム便りは全体的な活動参加状況のほかに、利用者一人ひとりの日常生活状況の写真を盛り込み、担当職員のコメントを記入したものを各家族に届けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者様が自分のペースで自分らしく、地域住民や子供たちと積極的に交流し、安心して穏やかに過ごして頂く」事を理念に掲げ、毎朝の朝礼で朗読し、職員全員が理念の共有をしている	管理者、職員は地域密着型サービスの意義や役割を認識している。職員は、毎日行う朝礼で理念は何かを確認し、利用者に対する声かけや態度など、理念をケアに生かしているかを日々振り返りながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけたり、近くの広場にお花見に行ったりしながら挨拶を交わし、地域の方々と交流を心がけている。また、夕涼み会には多くの地域の方々や子供達にも参加を頂き、交流を行っている	散歩時に近隣の人と挨拶を交わし、畑で作られている野菜の差し入れ等がある。散歩時はゴミ袋を持参してごみ拾いも行っている。地域の徘徊模擬訓練に参加し、終了後は地域の方々と一緒に茶話会を行い交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進協議会や地区の徘徊模擬訓練などに協力し、認知症への理解などを求めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での利用者状況や行事等の取り組み報告を行い、そこで出た意見やアドバイスをサービス向上に生かしている	会議は昼間に利用者と共用のホールで行い、推進委員のメンバーも利用者や挨拶を交わすなど、意見やアドバイスが出やすい会議となっている。利用者が作った雑巾の贈り先や方法などのアドバイスをもらったりすることもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス連絡協議会などに出席し、他事業所・地域包括支援センター・市の介護課職員などで意見交換会や地域で何ができるかなどに取り組んでいる	市担当者は運営推進会議のメンバーであり、ホームの考え方や運営に理解があり、気軽に相談できる協力関係を築いている。また、協力して地域で何ができるかを考える意見交換会等にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は勿論、言葉での拘束、居室からの出入り口、玄関の施錠をせず、自由に行動できるよう見守りをしながら、拘束しないケアに取り組んでいる	管理者、職員は、身体拘束の内容とその弊害を認識している。玄関や居室の出入口の施錠はしていない。また、否定的な態度や言葉遣いをしないよう、尊厳をもった態度で接することを大切にしている。	

宮崎県小林市 グループホームいろは

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の連携を図り、虐待のない介護に努めている。常に利用者の意思を重視したサービスの提供に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が安心サポートセンターを利用されているが、必要があれば成年後見制度等も活用していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、家族の方に分かり易いよう例を挙げて説明したり、不安や疑問等に関しても質問しやすいよう、配慮しながら行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事などに関しては、利用者の意見を尊重しながら反映させている	毎月、利用者の行事参加時の表情やホームの活動報告を写真入りで「ホーム便り」として家族に届けている。敬老会では家族も一緒に食事をしてもらい、意見等を聴いている。家族より行事日程の調整方法等のアドバイスをもらい、運営に取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回は職員の勉強会を行い、その中で職員の意見を聴き、意見を反映させている	運営者、管理者は、現場の職員の意見を聴き、運営に生かすよう取り組んでいる。毎食前の嚥下体操の実施やレクリエーション内容の見直し、道具の製作等、職員からのアイデアを採用している。研修会への参加も積極的に行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数による年1回の昇給やスキルアップ・資格手当などの実施、給与・昇給についての勉強会を実施し、どのような仕組みで給与が上がるのかを周知している。また、偶数月には職員同士のコミュニケーション会を実施している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成が施設の質の向上に繋がる事を十分認識し、日々の業務の中で職員一人ひとりのケアの力量を把握した上で、研修会に参加させている。また、資格取得に関しても休暇の確保を行い、研修会に参加しやすい環境を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加することにより、他施設職員との交流を図り、サービスの質の向上につなげている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に、本人さん自身に施設内の見学をしてもらい、入所者・職員、施設の雰囲気を確認して頂き、不安や要望を十分傾聴したうえで、安心と信頼の確保を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の悩み・不安・要望等を傾聴し、想いを受け止めながら家族に安心感を持って頂き、良好な関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の不安や要望をよく聴き、日常生活の中での必要なサービスを見極め、対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの能力に応じた役割や手伝いをして頂き、感謝の気持ちや労いの言葉かけを行うことにより、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族との絆を一番に考え、本人にとっての必要なケア、良いケアとは何かを家族と共に考え、協力を得ながら、本人を支える関係を築けるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅中に利用されていたスーパーや美容室に行ったり、知人に面会に行ったり、来てもらったりなどの支援を行っている	知人宅に連れて行き、帰る時は電話があれば迎えに行くようにしている。また、知人がホームを訪ねてくることもある。家族と墓参りをして、一緒に外食をする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上で、利用者同士がかかわりを持ちやすい環境の提供や言葉かけを行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先に情報提供することは勿論、家族にも、今後も必要時にはいつでも相談して頂ければ支援することを退所時にお話している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや要望を日常生活の中で把握し、記録に残し、アセスメント時に活用している	一人ひとりの思いを大切にし、行動を抑制しないためには、個々人の背景を知ることが大切であるという考えの下、日常の記録方法を検討し、利用者の状況把握に努め、本人本位のケアに生かすよう努めている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人・家族から聞き取りを行う。必要に応じて以前のケアマネからの情報収集にも努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員がコミュニケーションを取る中で、その人の心身状況、能力把握に努め、記録に残したり、全職員間で情報の共有化をする事で日々の支援につなげている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスは可能な限り家族にも参加して頂き、現状を把握して頂いた上でそれぞれの立場で本人らしく穏やかに生活できるような介護計画を作成している	介護計画は毎月モニタリングを行い、3か月ごとの見直しをしている。また、可能な限り家族に参加をお願いし、現状を把握してもらい、要望、意見を取り入れている。介護計画を毎日の記録用紙に記入するなど、周知やモニタリングへの工夫がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録を行い、本人の行動、発せられる言葉を具体的に記録に残すことにより、実践や介護計画の見直しに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望による買い物、美容室、自宅帰省、面会等、その時々生まれるニーズに対しても対応できるよう取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌や踊りのボランティア、移動美容室の依頼、レクリエーションの道具借用等、地域資源を活用し、安全で豊かな生活を楽しめるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を重視し、適切な医療が受けられるよう支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医への受診を支援している。協力医との連携も取れている。受診時は細かい情報提供を行い、医師からの利用者に対する情報は、家族、職員が共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康、精神状態の把握に努め、異常に気づいたら早期に受診し、適切な治療が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療を受けられるように、情報提供を詳しく行い、入院中も面会に行き、病院関係者との情報交換を行いながら良好な関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所で出来る事、出来ない事を十分に説明しながら方針を共有し、必要時は家族・主治医・事業所関係者と十分な話し合いを行い、チームでの支援に取り組める体制をとっている	終末期の在り方については、利用者、家族、職員と話し合い、また、協力医・事業所関係者とも話し合いをし、看取りの指針も整えている。本人、家族が看取りを希望する場合は、職員は方針を共有し、支援に取り組む体制作りがなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてはマニュアルを作成し、全職員に周知させている。また、救急隊員による蘇生法の訓練も行っている		

宮崎県小林市 グループホームいろは

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、利用者の安全な避難方法の確認、訓練を行うと共に、消防署・警備会社をはじめ地域住民の皆さんへの協力体制もお願いしている	ホームでは、地区消防署の協力を得て避難訓練、通報、消火訓練を行っており、夜間想定訓練もなされている。避難場所の確保もしているが、地区消防団や地域住民参加による避難訓練が行われていない。	ホームは民家に囲まれた環境にあり、避難誘導する際に地域の人々の協力が得られるよう、一緒に訓練を行うなど更に取り組むことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう言葉掛けや対応には十分な配慮を行っている	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう、「赤ちゃん言葉は使わない」「難しい言葉は使わない」「上から目線で話さない」「方言で話をする際は丁寧な言い回しの方を使う」「否定的な言葉は使わない」という対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや要望が自由に言えるような雰囲気作りに努め、自己決定を支援している。本人の何気ない一言にも心配りをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体を基本とし、一人ひとりのペースに沿ったその人らしい生活を送って頂くような支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	在宅中からのかかりつけ美容室を利用したり、好みの服を選んできたりと、好みに応じたおしゃれが出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物を聴きながらメニューを作ったり、できる人は職員と一緒に準備や片づけを手伝ってもらっている	利用者から「ラーメンが食べたい」などの希望があれば献立を変更することもある。利用者の状況に合わせて、その人のペースで食べられるようテーブルを配置するなど工夫している。下膳や台拭きなども強制せず、利用者のペースを大切に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランスを考えて献立を作り、個々の食事・水分摂取量のチェックを行っている。特に水分摂取は1500mlを目標に、好みや習慣にも配慮した支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は一人ひとりの能力に応じた口腔ケアを支援している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用や一人ひとりの排泄パターンでの誘導・排泄サインでの誘導や声かけで、トイレでの排泄にむけた支援を行っている	排せつチェックと水分摂取チェックに十分気をつけている。排せつパターン、排せつサインでの誘導や声掛けで、オムツ使用の方がリハビリパンツ使用になり、トイレでの排せつが可能になった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日に1500ml以上の水分摂取と30分以上の運動や散歩を取り入れ、植物繊維の多く含まれた食事の提供などで、自然排便を促す支援を提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体力や希望に合わせて入浴日を決めているが、希望があれば何時でも入浴出来る事を利用者に伝えてある。毎日入浴されている方もおられる	入浴を拒む利用者はいない。入居時に入浴を拒んでいた利用者が、入居されてから拒むことがなくなった事例もある。ゆず湯をしたり、皮膚の状態により使用する石鹸を変えるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの利用者が、自分のペースで生活できるよう、自室でのくつろいだ時間や休息のできる環境、安心して眠れる環境を提供している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬については、ほぼ理解しており、介助の必要な人については誤薬の無いよう確認し、服薬介助を行い、症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自信と喜びを感じ、張りのある生活を送っていただく為に、その人に出来る役割やお手伝いをしてもらったり、外出支援など個々の希望に沿った楽しみごと、気分転換の支援をしている		

宮崎県小林市 グループホームいろは

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り本人の希望に沿った外出支援を行っている。家族に協力を頂き、外食やお墓参りに連れて行ってもらったり、自宅帰省も支援している	天気の良い日には霧島の山脈をみながらお茶を飲み、外気浴を楽しめるようにしている。近隣の散歩も、コース別の距離を示し、利用者が目標をもって楽しんでできるよう工夫している。外食や墓参りには、できるだけ家族の協力を得て、家族との時間を過ごせるような支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を所持したいと希望される利用者には、家族と相談の上、お小遣い程度のお金を所持されておられる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族や知人に電話の支援は行っているが、本人からの要望が少ない為、家族に電話をしてもらうよう協力をお願いしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は季節感のある花を飾ったり、壁飾りなどを行い、居心地よく過ごせる工夫をすると共に、リビングから見える菜園には季節の野菜を植え、成長や収穫を楽しめる環境を整備している	共同の空間は掃除が行き届き、清潔に保たれている。リビングにはテレビ、ソファ、椅子、和室もあり、来訪者や家族と一緒にくつろげるようになっている。また、リビングからは菜園が見え、季節の野菜の成長や収穫を楽しむことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファやイスを置き、自由に過ごしていただけるようにしている。また、和室にもテレビを置き、思い思いに過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた馴染みの物や家族との写真等、お気に入りの物を持ってこられている。また、仏壇やお位牌等も持ってこられて、プライバシーを大切にしながら、安心して過ごせる環境を支援している	居室の入り口に、一人ひとりに合った模様の布で作った写真入りの飾りを名札代わりにかけている。居室には使い慣れたなじみの物や家族との写真を飾り、本人が安心して過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが出来る事、出来ないことを把握し、その人の行動を見守り、安全に自立した生活が送れるように工夫している		